

「新民族的メシヤは私たちの生命線」



私たちの人生は、何かのきっかけを持って運勢が上がったり下がったりすることがあります。日本宣教55周年記念大会を通して、大きな天運を下さった真の父母様と私たちが一つとなることで運氣が上がり、一つ一つの問題が整理されます。神様の願いである喜びと幸せの世界を実現していく方向へ向かっていきます。

伝道は、霊界における財産であり、自分の所有権に連結されていきます。“今までは蕩滅の道であったので、いくら蕩滅をしたとしても、残されるものではありませんでした。全て流れていきました。しかし、今は、民族的メシヤとして成し遂げていく全てのものは、霊界に行って自分の所有権として連結されていきます。自分のものとして残るというのです”。霊界に行けば三大審判があるとされています。み言の審判、実体の審判、心情の審判です。そこに引っ掛からないようにする為に、み言を実践して実体化し、そして心情化していかなければなりません。墮落性本性を体恤してしまった私たちは、霊界に行って天が公認し、サタンまでも公認する真の息子娘となる為に、天は本然の心情を復帰していく氏族メシヤの位置を私たちに与えて下さいました。墮落性本性(不信、自己中心、妬み、嫉妬、怒り、不安)に生きれば、不幸になっていきます。しかし、創造本然の心情である真の愛を動機として為に生きれば、幸福になっていきます。アダムとエバが墮落し、結果としてサタンから受け継いだ血統的な問題、歴史的な問題が、私たちの親子関係、夫婦関係に現れてきます。そして、親子関係が横的に展開していったものが兄弟関係です。さらに拡大して展開していったものが親族関係になります。私がお母様に似た清い本然の心情、霊界で合格できる真の愛の基準に達するために天が与えて下さった氏族との関係性、地域との関係性、伝道対象者との関係性の本然の愛と喜びの関係を築いていくことが、氏族メシヤになる道です。お母様から受けた天運をもって天の伝統を相続し、天一国ビジョンを実現していく原動力となっていくように、私たち一人一人が、新氏族メシヤ勝利に向かって邁進していきましょう。

本教会の礼拝に初めて参加された方を心から歓迎いたします  
神様と真の御父母様の祝福が共にありますよう。お祈り致します

- 1、お誕生日を迎えた食口の皆様、おめでとうございます。
- 2、ビジョン2020勝利のための「第二次40日特別精誠路程」が行われています。

期間:2013年10月28日(月)～12月6日(金)【40日間】

3、伝道三日路程

12月10日(火)～12日(木) 全食口同参

4、京都教区祝福式

日時:12月15日(日) 14:00～

場所:京都教会

5、京都教区クリスマス礼拝

日時:12月22日(日) 13:00～

場所:ガレリアかめおか

6、京都を愛する書写の会

日時:12月24日(火) 10:30～

場所:京都教会

7、京都教区 清平役事19周年記念特別大役事ツアー

日程:2014年1月17日(金)～1月20日(月)

清平大役事参加、「野牧教会」訪問、市内観光など

8、京都セミナー(二日修練会)

日程:12月7日(土)・8日(日)、12月14日(土)・15日(日)

12月28日(土)・29日(日)

場所:サン・アカデミー京都

【1日目】13:30～20:00(13:00受付)

【2日目】10:00～16:00(9:30受付)

9、しあわせ講演会

毎週金曜日 10:30～、14:00～ 場所:サン・アカデミー京都

10、教区全体特別精誠祈禱会

毎週金曜日 21:00～ 場所:京都教会

11、VISION2020勝利の為に基台長及び区域長修練会

日程:12/5(木)～12/10(火)、12/19(木)～12/24(火)

12、清平修練会

12/7(土)～12/9(月)、12/13(金)～12/15(日)

☆ 12月は、霊肉界マッチング修練会が行われます。

霊肉界マッチング修練会:12/13(金)～12/15(日)

【年頭標語】

天地人真の父母勝利解放完成時代

天地人真の父母勝利解放完成時代



京都教会

Holy Spirit Association For Unification  
of World Christianity Kyoto Church  
世界基督教統一神霊協会

教区長: 武藤 努 牧師

京都市右京区西院西高田町 6

Tel: 075-313-0539 / Fax: 075-325-2712

E-mail: son\_e2013@angel.ocn.ne.jp

京都HP: <http://www.uckyoto.org/>

## 式次第



執礼者：武藤努教区長  
司会者：佐々木大作

開 会	.....	司会者
黙 禱	.....	全 体
※開会讃頌	..... 聖歌 4 番 .....	全 体
※敬 拝	.....	全 体
※家庭盟誓	.....	全 体
代表祈祷	.....	
讃 頌	.....	聖歌隊
み言訓読	.....	全 体
説 教	幸せを呼ぶ 愛天愛人愛国家庭生活	
※讃 頌	..... 聖歌 2部-8 番 .....	全 体
※祝 禱	.....	教区長
※全体祈祷	.....	全 体
教会音信	.....	司会者
閉 会	.....	司会者

～お願い～ ※印のある項目は、全員起立して進行いたします

『 生めよ、殖えよ、地に満ちよ 』

## 今週のみ言

私たちは誰でも幸福を求めて生きています。  
「結婚するのは何のためですか？」と問えば、「幸福になるためです」と答えるでしょう。「子供を育てるのは何のためですか？」と問えば、「幸福になるためです」と答えるでしょう。「年を取ったら何を望みますか？」と問えば、「孫を抱いて幸福になりたいです」と答えるでしょう。

そして、「誰にでも訪れる死が来たとき、どこに行きたいですか？」と問えば、「天国という幸福の国に行きたいです」と答えるでしょう。

では、どうしたら幸福になれるのでしょうか。いつ、どこに、幸福はあるのでしょうか？ 十年、二十年先に？ 空の彼方に？ いいえ、そうではありません。実は、今、私たちの足元にあるのです。

春になると、冬の間は葉が散っていた桜が満開になります。春の風が、枝に花を咲かせるのです。幸福の花も同じです。幸運という春の風が吹くとき、枯れた人生にも花が咲くのです。ありがたいことに、冬が過ぎるのを待つ必要はありません。幸運を引き寄せることができます。いつでも、どこでも幸せの花が咲くのです。

では、幸せの花はどこに咲くのでしょうか。家庭という花壇です。花が太陽の暖かい光、澄み切った空気、降り注ぐ雨を受けて毎日育つように、私たちの幸福も毎日の家庭生活で育つのです。

幸運を引き寄せる家庭生活とは、どのような生活なのでしょうか。それが、文鮮明先生が提唱する、天を愛し、人を愛し、国を愛する生活です。“愛天愛人愛国”の家庭生活なのです。

文鮮明先生は人々を幸福にするために生涯を捧げられました。天を愛し、人を愛し、国、自然万物を愛する手本を示されたのです。

「私は人々の流れる涙をぬぐい、心の底に積もった悲しみを吹き払う人になりたかったのです。……人々に幸福をもたらす者になろうという心だけは固まっていきました」(文鮮明自叙伝『平和を愛する世界人として』、58ページ)

“愛天愛人愛国”の家庭生活を実践すれば、誰でも幸運を引き寄せることができます。今の生活姿勢を変えるだけで、幸福の道は開かれるのです。

## 統一運動

伊豆大島で統一教会平和奉仕ボランティア隊が活動中

東日本大震災発生以来、継続して支援を続けてきた統一教会平和奉仕ボランティア隊(UPeace)ですが、このたび、台風26号(10月16日未明)の被害を受けた伊豆大島で島外ボランティアの受け入れが開始されたのを受け、ボランティアを派遣することになりました。11月18日に第1陣を派遣して以降、これまでに3陣、延べ約20名の教会員を現地に派遣しました。

ここでは、11月26日から28日まで作業に当たった第3陣の様子を簡単に紹介いたします。

今回参加したメンバーたちは、25日午後10時に東京をフェリーで出発し、翌26日午前6時に伊豆大島に到着。午前8時半から現地のボランティアセンターで受付を済ませた後、オリエンテーションに参加し、ニーズのあるお宅に必要な用具を持って向かいました。

現場での作業は、民家の中や外に堆積した土砂を掻き出したり、屋内の砂ぼこりをきれいに払い落とすなどの作業がメインとなりました。沢山の砂ぼこりが舞う中をゴーグルとマスクを着用しながら、午後3時の終了時間まで黙々と作業を行いました。その日に掻き出した土砂を一箇所に集めると、その山は人の背丈ほどの高さには達していました。

12月中も現地のニーズが見込まれているため、UPeaceでは現在、第7陣(12月9～12日)まで派遣する予定です。

### 【第3陣 参加者の感想】

◆今回の災害ボランティアに参加して、改めて日頃の防災(減災)意識向上の必要性と、災害時だけでなく、日頃の地域社会との円満な交流や絆の大切さを感じました。ボランティアに来ている方々と交流することも多くあり、他の団体の方々と寝食を共にさせて頂きましたが、色々と交流する中で、特に個人で自発的に来られている方々は、外見は泥にまみれて真っ黒でしたが、自分は何ができるのかを一生懸命求めていて、笑顔がとても輝いて見えました。

◆実際の現場は、全壊や半壊のお宅もあり、献花が捧げられていたり心痛ましい状況ではありましたが、被災された方々が心から笑顔になり、安心して暮らせるように、皆が協力し尽力する姿や復興が進んできている現場を見て、希望を感じました。伊豆大島の一刻も早い復興を心から祈願し、また今回の貴重な経験を生かして、どんな有事の際にも人のために全力で尽くせる人間になっていきたいと思っています。

